

# 昭和 58 年創刊より 41 年間ありがとう



# みどりの絆

緑崇流吟道緑水吟詠会会報

令和六年 四月

2024

**NO.60**

総本部会報編集局発行

緑崇流事務所  
〒630-8135  
奈良市大安寺西1-334-3  
TEL/FAX.0742-35-6719  
E-mail/m-net@mvf.biglobe.ne.jp

所感

宗家 箕輪 緑崇

陽春の候 会員の皆様方にはお元氣でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素より緑崇流吟道緑水吟詠会に温かいご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

近年過去に例のない程、気温が高く温暖化の影響でしょうか季節の移ろいの風情がなくなりつつあり異常気象が懸念されていますが、やはり新年度はどうか春が巡る喜びが感じられて気持ちが浮き立つ節目の時でもあります。

さて、新型コロナウイルスの蔓延も何か遠い昔の出来事のように思えるほど、訪日の人々が街が溢れかえっています。年が明けて早々に暮らしを脅かす自然災害に心を痛める日々でございます。しかし、世界の平和を祈りつつ先の見通せない世相

だからこそ、人生の大切な時間を今一度、心を打つ詩の力を信じて詩吟と向き合って頂ければと、会員の皆様には学びの場として多岐にわたる分野で大いに活躍されていることは、担当講師の先生方の熱意ある指導があり、そして皆さまの努力にあると思っております。また、来年会創立五十周年を迎え新たな節目を目指して、皆さまと共にこれまで培った経験を如何に生かしていくかを考える機会になれば幸いです。

この度、毎年四月に発行しております会報みどりの絆が創刊より60号を迎える今季をもちまして終刊号としますことをご報告させて頂きます。会の情報誌として長きにわたって携わって下さった事務局編集部の方々には厚く御礼申し上げます。今後は変わらず色々な方法で会の情報を発信して参りますので、ご理解の程お願い申し上げます。

結びにあたり、皆様をはじめとしたご家族のご健康に留意されるところにも、ご活躍とご健勝を心よりご祈念申し上げます。

令和六年四月吉日  
(自宅書齋にて)

令和6・7年度 新役員

宗家会長	箕輪 緑崇	理事	渡辺 緑翔	副会長	宮原 緑晃	副会長	浦田 緑鴻	副理事長	若杉 緑高	監事	河田 緑烽	監事	松本 緑遥	総務部長	黒野 緑新	総務副部長	西岡 緑春	部員	神谷 緑妙	部員	河江 緑耀	部員	山本 敦翔	事務局次長	井内 緑叡	事務局次長	加藤 緑絆	事務局次長	松村 緑圭	事務局次長	米田 緑海	事務局次長	西岡 緑優	事務局次長	田脇 緑樟	事務局次長	渡部 緑翔	事務局次長	宮内 緑郷	事務局次長	島田 緑聲	事務局次長	木下 緑録	事務局次長	神崎 緑全
------	-------	----	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	----	-------	----	-------	------	-------	-------	-------	----	-------	----	-------	----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

# 祝 少壮吟士誕生

西岡 緑優



この度、令和五年十二月十日、千葉県市川市文化会館にて第四十四期少壮吟士の認定をいただきました。

ここまでの道のりは、去る三月に開催された、少壮吟詠家審査コンクール決選大会にて三回目の入選をさせていただき、少壮吟士候補となつてからの九ヶ月の間に、吟道大学、少壮夏季特別研修を受講、熊本で開催された名流大会に出演を経ての認定表彰となりました。

欠席や失敗は許されないというプレッシャーの中、いつも以上に体調管理や稽古に励みました。お陰様で流派の中では五人目、三十年以上ぶりの少壮吟士とならせていただくことが出来ました。これもひとえに宗家先生をはじめ、諸先生方、会員の

皆様方の応援のお陰だと心から感謝申し上げます。

小学生の頃から流派に所属させていただき、初代宗家奥蘭緑水先生にご指導を賜りました。あんなに怖いと聞いていた奥蘭先生は、私には優しい先生でした。先代箕輪緑崇先生にもたくさんお世話になりました。今までお世話になりっぱなしでしたので、これからは少しずつ流派に恩返ししていきたいと思っております。まずは、会員増強！そしてレベルアップ！微力ながら頑張つて参りますので今後ともよろしくお願ひします。



銅板の表彰状



【編集委員より】この度は誠にありがとうございます。より詳しい内容が西岡緑優先生のFacebookに投稿されています。こちらも併せてご覧ください。  
<https://www.facebook.com/Sachiyo.Yamamoto.Ryokuyu>



## 令和5年度昇段テスト並びにコンクール大会 高槻市生涯学習センター 多目的ホール 令和5年4月9日(日)

### 新人の部 優勝

百楽支部◇安藤 康久



この度、新人の部で優勝という栄誉を戴き、大変感激しております。木下緑鋒先生の丁寧な御指導を始め、百楽支部に来られる諸先輩の皆様のご指導の賜物と心から感謝申し上げます。また時折、百楽支部に足を運んで頂いた折にご指導いただきました松本緑遥先生にも大変感謝致しております。

この年、八十歳で新人というのは非常に恥ずかしい次第ですが、住まいの近くの会館で詩吟教室があることを知り、辻 栄鋒さんに紹介をして頂き、入会させて頂きました。ありがとうございます。

大声を出すことは身体に大変良いと聞いていたので、民謡やカラオケ・艶歌で遊んでいる現在に、若い頃にチョット齧っていた詩吟を思い出し、発声の一項に加えて頂いた次第でございます。

これからも体力維持に努め、吟道に精進致してまいります。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

### 四段及び新担当師範号

雅号	本名	支部	担当師範
〔四段之一〕			
渡部 翎翔	玲子	南方	渡辺緑翔
〔四段〕			
山本 駿春	宗人	東京	西岡緑優
平井 燕翔	捷夫	クローバー	渡辺緑翔
小橋 月翔	正枝	十三北野	渡辺緑翔
松井 美晃	美千子	曙	宮原緑晃
吉田 恕秀	如男	玉造	津村緑秀
野田 侑郷	侑吾	城内	宮内緑郷
〔初段〕			
田中 弘秀	美矢子	玉造	津村緑秀
貞原 弘遥	弘子	京口	松本緑遥
山原 和晃	和三	曙	宮原緑晃
法貴 博晃	博光	曙	宮原緑晃
安藤 康鋒	康久	百楽	木下緑鋒



令和5年度昇格者並びに新緑号取得者



六段  
三谷 緑茜



六段  
西部 緑楠



七段  
垂水 緑花



七段上席師範  
宮内 緑郷



大範師  
井内 緑叡



五段  
森井 緑譚



五段  
田脇 緑檸



五段  
菊田 緑晟



五段  
西尾 緑康



六段  
石川 緑誓

大範師を戴いて

治宮支部◇井内緑叡

令和五年度昇段昇格に於いて、九段大範師を賜り身に余る光栄と、深く感謝申し上げます。

偏に、宗家先生、渡辺緑翔先生、諸先生方、会員の皆様のお陰様です。

ありがとうございます。

長年、大会で良い成績を頂くことも出来ず、ただ長い間続けさせて頂いているだけですが、その事へのご褒美と思ひ、有難く頂戴いたしました。

「吟は厳しく、会は楽しく」まず、「会は楽しく」でこれからは微力ですが、明るく、和やかで、笑顔のあふれる会の為に、少しでもお役に立てますよう精進致したく思っております。

今後共、ご指導、ご鞭撻をどうかよろしくお願い申し上げます。

七段を戴いて

淡路トマト支部◇垂水緑花

九十歳を迎え、七段を戴き光栄に存じます。昨年は最高齢にて賞を戴き、三十有余年、渡辺緑翔先生のご指導の下、頑張つて参りました。

渡辺先生には感謝申し上げます。

長い人生を歩んで参りましたが、今が一番充実している様に思います。

只、体力的に落ち今までの様に何事もテキパキと出来ないのが残念です。

これからは皆様に何かとお世話になります。もう少し詩吟を続けて参りたいと存じます。

ご指導宜しくお願い申し上げます。

六段を戴いて

新北野支部◇西部緑楠

この度は、六段に昇段させて戴き有難うございました。

詩吟との出会いは東淀川区の会社に転勤中、ふとした時に、近くの酒屋さんと呑んでいると店主から詩吟教室を紹介され入会したのが始まりでした。そこには今は亡き中山緑山先生（辻堂支部）がいらつしやいました。仕事仲間と数人、入会しましたが、しばらくして次々といなくなり二人になったように記憶しています。

習つて驚いたことは「こんなに詩吟をする人がいる」「仲間同士、仲良く、チームワークがとれている」という事です。

退職後、再び緑崇流で始めることになりましたが、その形は今も変わらず、引き継がれているように思っています。

吟は簡単なようで、習えば習うほど難しく壁に当たります。乗り越えるのに時間と忍耐が要ります。なぜなら、誤読と絶句を繰り返すと途方に暮れますし、練習が足りないからだと思省し自分を責めたりします。その時、浦田緑鴻先生、渡辺理事長から叱咤され、気をとり直してこれまで続けられたと思います。各支部の皆さんからも声かけがあり、いつも感謝で一杯です。これからも頑張ります。高齢ですが…。

### 緑号を載いて

川西支部◇西尾緑康

この度は緑号を戴き本当にありがとうございます。雅号は「緑康」です。詩吟を始めたのは趣味の民謡の仲間と軽い気持ちで見学に行き、教室に通うようになりました。

詩吟に対してはあまり知識がなかったので、なかなか馴染むことができず、迷いながらの稽古でしたので、一向に上達しませんでした。井内緑叡先生の丁寧で優しく、時には厳しい御指導を頂きながら続けていく事により、緑号を戴くことが出来ました。

本当に驚きの気持ちです。  
「継続は力なり」です。

様々な大会に於いて諸先生方、先輩の方々の詩吟をお聴きしていくことで詩吟の厳しさ、内容の奥深さ、楽しさ等を感じられるようになりました。大声でお稽古をした後はスッキリと落ち着いた気持ちになります。

これからは健康に留意しながら自分なりの詩吟を続けていけたらと思っております。

井内先生、支部の皆様、これからどうぞよろしくお願い致します。

### 緑号を載いて

曙支部◇菊田緑晟

八十の手習いで始めた詩吟。良き師と親切な先輩吟友に囲まれ、思いもかけぬ緑号を戴くことが出来ましたことは本当に夢のような思いがします。

元々、声を出すのが好きで、小学生の頃は軍歌、中学生の頃から唱歌に始まり歌曲、カンツォーネ、流行歌とジャンルを問わず好きな曲を歌っていました。その頃はレコードはありましたが蓄音機（プレーヤー）は高価でそうそうお目にかかれるものではなく、ほとんどラジオから覚えたものです。

詩吟に触れたのはかなり遅く「鞭聲肅々」という詩からです。初めの印

象としては、武士の嗜みといった感じで捉えていました。あるサークルで生の詩吟を聴いて感銘を受け、師事することとなりました。声を出すことに気を遣い、詩情を表現することが難しく、未だに苦労しています。学校の漢文の時間で習った詩に触れ、懐かしく思い乍ら初めて知る言葉が多いのに驚きました。詩を通して歴史を考へることは非常に面白く、意外な発見に出会うことがあり興味津々です。

いつまで続けられるか判りませんが健康上からも、詩吟が私の友人としてまだまだ傍らに居てくれることを願っています。

### 緑号を載いて

玉造支部◇田脇緑樟

宗家先生、渡辺緑翔先生、緑崇流の先生、先輩方、そして担当師範の津村緑秀先生、いつもご指導いただきまして誠にありがとうございます。この度は緑樟の雅号を戴き、誠にありがとうございます。

二〇一五年より詩吟を始めまして、まだまだ緑号をいただくのは先だと思っております。全然心構えができておらずただただ恐縮しております。

とはいえ、緑号を戴けるのはやはり嬉しいのです。

最初は枝秀の枝を使おうと思っただけでしたが「りよくし」先輩がいらっしやるので違う漢字にしようと思いが、枝から木にしようかと思いましたが、どちらでも総画数があまり良くなかった。木へんのつく漢字にしようと思いつき、それなら花か実がなる木にしようと思いつき、さらに画数が良くなる字でと思い「樟」になりました。これで総画数が47画となり、スーパーウルトラ大吉の画数となっています。人から愛されて開花する画数だそうです。

また「樟」という漢字は樟様で使われますが一字では使うことがないそうです。緑崇流があつての緑樟という意味でもびつたりだなどという気に入っています。ですが書きにくい文字なので、いつも大会で証書の役にあたっておられる大岩緑園先輩に賞状を書いていただけるよう頑張ろうと思っております。

この名に恥じないよう、これからも精進していきたいと思っております。今後とも先生方、先輩方どうぞご指導よろしくお願いいたします。



緑号を戴いて

淡路トマト支部◇森井緑 譚

この度は緑号を戴きまして本当に有難うございます。まだまだ未熟で実力不足と認識しております。

詩吟との出会いは淡路地域活動の『女性会祝賀会』で初めて詩吟を拝聴しました。垂水緑花さん、河江緑耀さんの着物姿に驚きと、興味深い詩吟の世界に魅了され感動し、衝撃を受けて、淡路トマト支部に入会させて頂きました。

いまだにカラオケのような吟じ方で「喉でなく、お腹を使って!」「もう初心者と違うでしょう!!」渡辺緑翔先生の厳しい指導に苦しみ、詩吟は向いてないな〜と何度も挫折しつつ、伸び悩む日々と格闘しています。が、一度たりとも辞める事は考えませんでした。

渡辺先生の注意されたポイントを「ここ」と鉛筆でチェック、「ここ」と腹筋を指す、さりげなく指摘して下さる優しい先輩がいます。

詩吟に一步踏み入れて、学ぶ楽しさと人生の彩りを得る機会が出来ました。まだまだ足踏み状態で成長しておりますが…。

宗家先生、渡辺先生、諸先生方、これからも宜しくご指導お願い申し上げます。

名刺交換会

令和五年度 上位昇段・昇格者及び新緑号名刺交換会が令和五年七月十一日に十三福祉会館で行われました。新緑号は4名誕生しました。おめでとうございます。



新支部紹介

はじめまして。きずな支部です。



担当講師◇加藤緑絆 渡辺先生と息子の駿(しゅん) 97.5.28

自分のことではないってイヤで、師範になる事など考えられなかった私に、師匠である渡辺緑翔先生や、まわりの皆様からの勧めもあり、まずは一步踏み出してみようかな!という思いから宗家先生のお許しを戴き、令和五年七月より「きずな支部」を開設させて頂くことになりました。

とはいえ、誰を入れる? 問題発生です。問答無用で息子を強制入会。そのため、お恥ずかしいのですが、まだ本格的にお稽古も始められていません。ですが、赤ちゃんの頃から渡辺先生の膝の上で詩吟は聴いておりましたので馴染はあります。続けてくれると信じて、一人でも会員さんが増えるよう頑張りたいと思います。皆様、ご披露できるその日まで、どうぞ長い目で見守って頂けたら幸いです。

これからもよろしくお願い申し上げます。

吟行会

令和5年10月15日(日)

おごと温泉へGO!!

コロナが明けてようやく、みなさんと一緒に旅行ができるようになりました!

旅の行程

- ← イングリッシュガーデン見学
- ← 里湯昔話 雄山荘
- ← 道の駅びわ湖大橋米プラザ
- ← めんたいパークびわ湖



第三回 プラチナ吟詠コンクール

日時 令和5年10月8日(日)  
場所 此花会館梅香殿

淡路トマト支部◇石川 洋子



この度、プラチナ吟詠コンクールで優勝を戴き有難うございました。いつものまにか十七年の月日が過ぎ八十一歳が目前です。自身の体調と戦いながら、私がかもてる最高の吟をと、舞台上に立ち続けてきました。自分一人で自信を持てることも少なくなってきましたが、渡辺先生の支部での一人一人を思う熱いご指導の姿に力を頂いて、もう少し頑張ってみようと思えます。

第三十回 渡辺緑翔門下温習会  
翔け八十！ 鍊成大会

日時 令和5年11月25日(土)  
場所 ホテルプラザオースカー1階「雅の間」

五領支部◇藤倉 智志

今年で30回目の記念となる温習会に参加させていただきました。私自身は、2回目の参加でした。

前回は、全員一人一人の吟詠があったのですが、今回は、教室ごとの合吟というスタイルと、選抜メンバーによる企画吟があり、李白と杜甫をテーマにした大変格調高く、見ごたえのある趣向でした。

私が、玉造支部の安岡さんのご縁で、当流派に入会させていただいたのがコロナ流行の直前でしたので、詩吟に関わるようになり約3年となりました。

まだまだ吟詠の実力は伴いせんが、詩吟への興味・関心は日々強くなつてきております。

また、流派の方々との交流・お付き合ひもたくさんいただき、楽しく詩吟ライフを過ごさせていただいております。

今回の温習会の懇親会でも、玉造支部の皆様への演し物に参加をさせていただき、練習・発表を通じて楽しく交流させていただきました。

お粗末ながら、今回の温習会での様子を五言絶句にしてみました。韻は踏んでいます、平仄は反映しておりません。  
御笑納ください。

会温習会  
有友拳酒盃  
共学吟詠道  
酔佳句酔酒  
喜逢親若老

温習会に会する  
友有りて酒盃を挙げる  
共に学ぶ吟詠道

佳句に酔い 酒に酔う  
若老 逢親しみ喜びとなす



井内緑叡おさらい会

日時 令和5年12月20日(水)  
場所 福寿舎 蔵

五領支部◇奥村 緑星

高槻市の古民家の「蔵」で、新人を含み絶句二題を吟じました。曙支部の六名・宮原緑晃先生・中塚緑庵先生も来て頂き、吟じて頂き、おおいに盛り上がりました。また、井内緑叡先生には講師吟詠として吟じて頂きました。終了後、場所を移動し恒例の「合同忘年会」へと展開しました。

久しぶりに詩吟の仲間と懇談し和気あいあいの中、来年の躍進を祈りつつ散会となりました。



編集後記

【編集長 米田緑海】

会報がこの60号をもって終刊となりました。長年にわたり会員の皆様には、原稿等の提出の要請に快くお引き受けいただき、誠にありがとうございました。しかし、これで「みどりの絆」は切れたわけではありません。当流事務局や会員同士の交流、各吟大会の成績等、昨年より登録のフェイスブック「みどりの絆」にアクセスすれば見ることが出来ます。今更ながら私には苦手なスマホの扱い。一から勉強です。

【副編集長 津村緑秀】

会報45号から編集委員を務めさせていただき今回の60号「終刊号」まで15年間編集委員として全うさせて頂きましたこと、誠にありがとうございました。皆様から頂く原稿を真つ先に読める嬉しさは編集委員しか味わえない特権でした。楽しく読んでいただけると毎号小さな工夫をして、私自身も楽しんでおりました。皆様の活躍の声を紙面に残すことは、これからありませんが、どこかでその声が皆様の耳に届くように願っております。

【編集委員 徳岡緑江】

やわらかな日差しに心浮き立つ季節となりました。記念すべき60号、楽しく読んで頂けたでしょうか。編集委員となって6年、競吟大会での数々の賞など会員の皆様の喜びの声と満面の笑顔を記録してまいりました。これが最後ということで名残惜しさもありますが、こうして任務を全うできたのも皆様のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。オンラインの交流となつても「みどりの絆」は永遠です。

【編集委員 田脇緑樟】

コロナ禍も終息の兆しがようやく見えて、様々な各種の制限も解除されてきました。やつとお稽古や大会、懇親会等で皆様とお会い出来る機会も増えてホッとしております。制限期間中は多くの事を悩んだり、考えたりコロナも3回罹患したり。今は健康や平穏な日々をありがたく感謝しなければならぬと実感しております。最後になります。短い期間でありました。

が、編集委員を楽しく務めさせて頂きありがとうございました。

【初代編集長 宮原緑晃】

会報「みどりの絆」も今回の60号で終刊という事になりました。少し寂しい気持ちもありますが、今後はデジタル社会に乗じフェイスブックにて発信していくことになりました。振り返れば発刊に際しては本部方針の伝達、会員の要望、提案の取り上げ、会員の交流と会全体の調和の場を目的に創刊号が昭和五十八年五月から一度も休刊することなく多くの編集委員の皆様の努力により継続出来たことは、感謝の念に堪えません。ご苦勞様でした。

【四代編集長 松村緑圭】

令和七年には会創立五十周年を迎え、会報も60号となりました。時代も変遷しアナログからデジタルへ情報伝達手段も変わる節目でもあったかとも思えます。

年配の方々もスマホを使いこなす時代となり、紙印刷からPCのホームページへ、スマホからフェイスブックへと当会も変わったわけですが、この先を見据えて新たな会の躍進と展望が開けてくるのを期待したいと思っています。

【五代編集長 河田緑燈】

私が編集委員に、参加させて頂いたのは、会報16号（昭和61年）からです。うち編集長は会報43号から48号（平成25年）迄です。



編集委員20数年間の気がかりはお名前前の間違いです。会報を配布後もその他間違いはなかったか悩みましたが、編集の仕事をして頂いて、多くのことを学びました。諸先生、編集委員の皆様にお力添え頂いたおかげと感謝しております。ありがとうございました。

ニューズ東西南北

大会記録

〈大阪府吟剣詩舞道総連盟〉

第47回全国吟詠コンクール大阪府北連合大会  
一般二部

〈上位入賞〉安岡節也・中塚宏輝

一般三部

〈決勝進出〉5位 石川洋子

7位 井内鈴子

13位 廣瀬さち子

〈上位入賞〉前之園明・西岡悦子・神崎安雅

有宗昌子・森井澄子・松永幸代

辻悦子・木下真次・片山美都子

宮内幸夫・松野節子・加賀山豊

島田喜久子・島田久美

第47回全国吟詠コンクール大阪府大会

一般一部 3位 加藤恭子

一般三部

〈決勝進出〉12位 松野節子

〈上位入賞〉西岡悦子・石川洋子

〈日本クラウン株式会社〉

第50回クラウン全国吟詠コンクール

近畿地区大会

〈入賞〉徳岡江子(全国大会へ)

第65回大阪府詩吟連盟吟士権者決定詩吟大会

第一部

〈決勝進出〉準々吟士権者 加藤恭子

14位 島田久美

〈上位入賞〉辻悦子・石川洋子

松永幸代・津村真紀

(愛連出場資格者)

第二部

〈決勝進出〉7位 松野緑焔

〈上位入賞〉西岡緑春(愛連出場資格者)

第47回全国吟詠コンクール近畿決勝大会

一般三部 3位 西岡悦子(全国大会へ)

第78回愛国詩吟総連盟

第一部吟士権者決定詩吟大会

〈決勝進出〉13位 加藤恭子

〈入賞〉石川洋子

〈淀川・東淀川詩吟連盟〉

第48回吟士権者決定詩吟大会

一般一部 準吟士権者 渡部玲子

〈大阪府総連盟〉

第3回プラチナ吟詠コンクール

優勝 石川洋子

〈高槻市吟剣詩舞道連盟〉

第51回高槻市吟剣詩舞道決勝大会

一般三部

〈決勝進出〉4位 安藤康久

〈上位入賞〉7位 西尾康子 9位 大海告子

第15回藤井竹外奉賛全国吟詠大会

〈決勝進出〉4位 津村真紀

〈上位入賞〉7位 島田喜久子

11位 島田久美

第36回関西クラウン吟詠家ジョイントリサイタル

令和5年8月20日(日)

愛と勇気の三つの物語

〈当会より出演者〉宮原緑晃・加藤緑絆・宮内緑郷

大阪府詩吟連盟結成65周年記念詩吟大会

令和5年11月26日(日)

第44期少壮吟士認定

西岡緑優 祝賀のつどい

令和6年2月23日(金・祝)

ホテルプラザオーサカ「淀の間」

第14回愛連吟詠フェスティバル

令和6年3月3日(日)

〈出吟〉加藤恭子